

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472800644
法人名	医療法人 社団借新会
事業所名	グループホーム 錦
所在地 (電話番号)	度会郡大紀町錦177 (電話) 0598-73-3338
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 2 月 9 日(月)

【情報提供票より】 (H21年1月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	15,000 円~
敷 金	有(円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> 70,000 円 無	有りの場合 償却の有無	<u>有</u> / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(1 月 16 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	名	要支援2	1 名
年齢 平均	85 歳	最低 79 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人借新会 小関医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔ながらの漁業の町の風情のある町並みの中にあり、福祉の事業所を思わせない普通の家の感じがする事業所である。職員も利用者も地域の人で、朝起きてから寝るまでみんなが一緒というくらい、みんなが小さい頃からの知り合いで仲が良く、遠慮のない間柄で、いつも明るく賑やかな大家族を思わせる。また地域の人や子どもたちとの交流もあり、職員利用者共に穏やかに落ち着いて地域の中で過ごしておられる感じのする事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>全員の職員会議で話し合いながら改善を進めている。理念についての見直し、同業者との交流、介護計画書の見直し、水分確保等職員みんなで改善検討しサービス向上につなげる努力をしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>一部の担当職員だけの取り組みにせず、職員会議等で全員の意見を集約してまとめている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に開催されており、事業所サービス内容の報告だけでなく、緊急速報について勉強したり、避難訓練実施に向けての話し合いや参加依頼など、事業所のことを少しでも多く知ってもらえるよう努力してる。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問時や運営推進会議の席等で気軽に話してもらえるようにしているが、要望はあっても苦情はない。もし苦情が出た場合は運営推進会議で公表し検討することになっている。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>設立当初から地域との交流が盛んで、地域の人が多く出入りしているし、小学生や学童保育の子どもたちとの付き合いもある。また地域の行事への参加もしているし、事業所の行事への地域の人の参加も多く、一軒の家として地域に溶け込んでいる。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との共存を目指した理念として、「住み慣れた地域や環境のもとで、人生の先輩として、お年寄りの心を大切にし…」と、職員みんなで検討し見直しをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送りの際に理念を確認しているし、利用者に接する時は常に意識して支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立当初から地域との交流が盛んで、自治会の加入はもちろん地域の人が自由に出入りしている。また小学校や学童保育所との付き合いも多く、文化祭や卒業式に招かれたり、ボランティアや福祉体験学習の場となっている。事業所の行事への地域の人の参加も多く、地域の一員としての交流になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は毎月開催している職員会議で、全員が意見を出し合った上でまとめている。また今年の改善項目についても、職員会議で話し合い、改善に取り組んでいる		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回、定期的で開催されており、事業所の状況報告だけでなく、活発な意見交換もされ、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	水道料金の支払いを、わざと現金扱いとし、入居者と一緒に町役場に支払に行くなどして、市役所職員と少しでも話す機会を増やす努力もしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会訪問時に本人の様子を話しているし、「グループホーム錦」だよりを毎月発行し金銭管理の出納簿のコピーと一緒に家族に送り、事業所内の様子や行事について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時や運営推進会議の席で意見・苦情を尋ねているが、現状は苦情はない。日常の会話の中でも、希望・要望はあるが、苦情につながるものはない。もし苦情が出た場合は運営推進会議の席に提出することになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内に2つのグループホームがあるが、職員は基本的に固定である。顔なじみの職員によるケアを基本とし、職員もこの地域出身者が多い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協やグループホーム協会、町主催の研修会等、職員全員が受講できるよう配慮している。また資格取得に関しては、勤務シフトを変えるなど、受験に対する支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の研修会に出席したり、近隣の3つのグループホームの交流会を開催し、お互いに勉強し合っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が納得の上安心しての入居につながるよう、朝から夕方までの「体験入所」を実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、理念の「人生の先輩として…」の心を持って一緒に生活する中で、「昔はこうとった」とか「昔からのしきたり」等についていろいろ教わりながら、支援している。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から遠慮なく何でも言える雰囲気づくりをしており、日常の会話の中から希望や意向を把握できるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族のケアに関する要望を十分に聴き、また体験入所等での気づきや意見を取り入れ、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員みんなで入居者の状態を確認し、毎月全員のモニタリングを行い、3ヶ月ごとに評価を行っている。また状態に変化があれば随時計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	馴染みの場所や、墓参り、故郷訪問、外食、温泉等、本人・家族の希望に応じて支援している。また事業所で行う「リハビリ運動」への参加を地域に呼びかける等、地域のニーズにも応えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の選択は本人、家族の希望に任せている。事業所の協力医への受診は職員が同行したり、時には往診も可能であり、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合について、入所手続きの際話し合っているが、現在のところ、親法人が医療機関であり緊急の事態になれば医療機関の協力を得る方向での支援になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所として、プライバシーの確保には気を使っており「個人情報を外に漏らさない・話さない」ことを徹底している。事業所便りの写真も本人・家族の了解を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の体調や気分で、その日にしたいことを把握し、その人その人のペースに沿って支援をするように心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が食事の用意をするが、下ごしらえや味付けなど利用者も食事作りに参加している。また盛り付けや後片付けも、できる人が手伝っており、職員も全員が利用者と一緒に会話を楽しみながら食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴はできるようにしており、体調の良い利用者は毎日入浴している。時間帯は午後が多く、夜間の入浴を希望する人はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事前後のテーブル拭きや、食器洗い、洗濯物たたみや花の水遣りなど楽しみごとや得意なことをできる範囲でやれるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は買い物や、散歩、外食など、できるだけ希望にそって外出の機会を持つようにしている。地域にはいくつかの行き付けの喫茶店があり、トイレを高齢者向けに洋式に改装してくれた店もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないで済むように、見守りや音の出る装置を付けるなど工夫し、鍵をかけないケアの実践をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	過去の経験もあり、地域的に火災よりも津波を警戒しており、地震のときの津波のシュミレーションを見ての避難訓練もしている。年2回は行っており、運営推進会議や消防署の協力も得ているが、いずれも昼間の訓練である。	○	年に2回3月と11月にきちんと避難訓練をされており、是非継続されることを期待したい。また、地震はいつ発生するか予想はつかないので、できれば最悪の条件、例えば夜の職員の少ない時間帯に発生した場合等を想定した訓練も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はその日の職員が担当することになっており、各利用者の趣向を献立に反映するようにしている。栄養バランスのチェックはしていないが、通常の家のようにバランスの取れた食事になるように工夫している。水分補給にも注意をしており、夜でも各人が自由に飲めるように200ccのストロー付の容器も用意している。	○	通常の家のように、その日その日の利用者の体調に合わせた献立を作られているが、時々栄養バランスのチェックも受けてみられることを希望する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階は各利用者の個室になっており、1階が共用の空間である。台所からのお料理の匂いや、季節を感じさせる花、壁の飾り物など通常の家庭の感じがするアットホームな空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットと小物入れが備え付けであり、他はテーブルや鏡台等、馴染みの家具を置いたり、壁に写真や趣味の作品を飾っている。またエアコンの風が直接当たらないようにベットの位置が考えられている。		